

城陽高校図書館だより

ふみくら

2020-No. 2

令和2年7月22日

京都府立城陽高等学校図書館発行

期末考査の答案も返ってきて、一学期の学習の成果が確認できたことと思います。今回不振だった生徒は二学期にがんばりましょう。さてもうすぐ待ちに待った(?)夏休みです。さっそく夏休みの特別貸出と夏休みの開館についてお知らせします。

夏休み特別貸出のお知らせ

夏休み特別貸出は7月27日(月)からはじめます。返却期日は8月21日(金)です。何冊でも読みたいだけ貸し出しますので、たくさん読んで下さい。

夏休みの開館



開館日

8月3日(月)~6日(木)

8月17日(月)~8月18日(火)

ただし、急な会議や出張が入った場合は休館とします。

開館時間 9時~15時

こんな本はいかが？

図書担当の先生三人より夏休みにおすすめの図書を紹介します。

「御社のチャラ男」 絲山秋子著

今の社会の会社事情が面白おかしく書かれている。その中で、人の心の動きがよくわかって面白かった。

(推薦者; 宮井章 (商業・情報))





「ハーバード流『聞く』技術」パトリック・ハーラン著

アメリカ人の著者が自分の考えを言いながらも、相手の意見も慎重に聴く態度が大切だと説く。つまり話を聴いて価値観と思考スタイルを把握することで相手の真のメッセージも見えるし相手を動かすために有効な話し方も見えてきます。
(推薦者；前田順次（英語）)

「線は、僕を描く」砥上裕將著

バイトで水墨画展を訪れた青山霜介は水墨画の大家篠田湖山と知り合う。そして、成り行き上孫娘千瑛と水墨画で勝負することになる。霜介は湖山の指導の下、水墨画を始める。そして、水墨画は父母を亡くした霜助の心の傷を癒していく。週刊少年マガジンでコミカライズされた傑作です。
(推薦者；今出和良（司書）)

<七夕飾りを振り返って>

今年は少々小ぶりの七夕飾りを作りましたが、たくさんの生徒が願い事を書いてくれました。また家庭科の授業で作成された七夕飾りも図書館の入口に飾られました。生徒の皆さんありがとうございました。そして、今年も七夕に関する図書が新しく入りました。少し時期遅れですがいくつか紹介します。

「こうえんのシロ ほしまつり」 わたなべひろみ作

七夕の日、子犬のシロは、ワンワンパトロール隊の仲間々と笹飾りを作ってうきうきしていると、長老犬が大昔、シロは空の星だったという話をはじめます。子どもの頃によんだ「こうえんのシロ」シリーズの1冊です。

「七夕の月」 佐々木ひとみ作 小泉るみ子絵

「幻の七夕飾りを見つけて欲しい」・・・長年「仙台七夕まつり」を守ってきたおばあちゃんの想いを受けつごうと必死で折り鶴を折る二人の少年の、出会いと友情、そして奇跡の物語。

「境内ではお静かに 七夕祭りの事件簿」天祢涼著

美少女巫女・久遠雫に想いをよせる坂本壮真は彼女の務める神社で働いているが、クールな雫の心はわからない。謎やお悩みを鮮やかに解決する雫と壮馬のコンビが出会った七夕の夜の願い。大好評の神社お仕事ラブコメミステリー。

<願い事の書かれた短冊>

<入口の七夕飾り>

